様式1

令和2年度　小林市立須木小学校　自己評価書

4段階評価	4　期待以上　　3　ほぼ期待どおり　　2　やや期待を下回る　　1　改善を要する

学校経営ビジョン	「夢や希望をもち、笑顔いっぱいの須木っ子の育成」 ～「学びたい」子ども「学ばせたい」学校・家庭・地域の集う学校づくり～ 【テーマ　エンジョイ！すきっ子ライフ】

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	実践事項	具体的な取組	自己評価 取組別	自己評価 総合	結果の考察・分析および改善策等
知育	重点目標: 基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ児童の育成 手段 1　基本的学習習慣の徹底 2　宅習ノートを活用した学びのサイクル作りの推進 3　タブレットを活用し、児童の学習意欲と活用技能の定着を図る 4　絵本100冊運動の実施と、読書を活用した学力向上の取組の推進 5　一人1授業の実施、授業論文の応募等を通した授業力向上	1について ○　立腰・鉛筆の正しい持ち方の指導	○　学習の約束に関する指導の重点化（立腰、鉛筆の持ち方）と継続的指導の実施 ○　低学年児童への鉛筆の持ち方グリップの活用	3	3	・鉛筆の持ち方グリップを活用させることで、少しずつ正しい持ち方のできる児童が増えてきた。全員が正しい持ち方ができるように継続して支援を行っていきたい。 ・昨年度と比較すると、教師の評価が0.6ポイント、保護者の評価が0.1ポイント高くなっている。 ・あと数名が、正しい鉛筆の持ち方ができていない。全員が正しい持ち方ができるように、粘り強く指導していきたい。
		2について ○　宅習ノートの改善指導 ○　保護者と協力した家庭での学習習慣の確立	○　家庭学習の手引きの見直しと家庭への啓発（参観日、教育相談、通信等） ※　4つの決まり、6つの約束、家庭学習の手引きの配付 ○　ノーメディアデーの実施 ○　基本的生活習慣の確立に関する保護者への啓発	3		・家庭学習の4つの決まり、6つの約束を作成し、宅習ノートに貼らせたり、よい宅習をコピーし児童玄関の壁に掲示したりすることで改善を図ってきた。しかしながら、個別指導を要する児童もおり、昼休み等に個別指導を行ってきた。今後は、家庭とも連携をして更なる改善を図っていきたい。 ・宅習の書き方や学習習慣の確立に向けた家庭への働きかけや支援が十分ではなかった。動画視聴やゲームといったメディアの利用への指導も含めて、次年度以降は、協力して家庭学習の指導を行っていきたい。
		3について ○　研究授業での活用に関する授業研究 ○　日々の授業での活用 ○　すきるタイムでの活用	○　タブレットを活用した研究授業の実施（校内での研究授業及び小中合同研究授業） ○　日常の授業におけるタブレットの積極的な活用 ○　スキルタイムにおける週1回以上のタブレットの活用	3		・今年度は、タブレットの活用率は、昨年度と比較すると大きく向上している。保護者の評価は0.4ポイント向上している。 ・今年度は、教師のタブレット活用に関する研修や子供達の活用について研修を行ってきた。しかしながら、更に効果的な活用方法について、研修を深めていく必要がある。 ・実際にノートに書くことも大切なことであり、ノートの書き方指導とタブレット活用とのバランスをとっていく必要がある。
		4について ○　図書を活用した授業の実施 ○　読み聞かせの充実（あすなろ会との連携）	○　読書旬間の実施(年2回)※6月、11月 ○　あすなろ会等の読み聞かせの実施 ○　図書委員会を中心とした読書推進の取組（多読賞、読書ビンゴ、読書スタンプラリー等） ○　教員による読み聞かせの実施（お話玉手箱）	3		・読書旬間における教師や委員会の児童による読み聞かせ、代表児童による本の紹介、多読賞表彰などの取組により、本を読む児童は増えた。 ・図書室の利用状況や読書量には、個人差がある。全校児童の読書の状況を把握し、表彰などの手立てを講じていきたい。 ・あすなろ会の方の御協力により、読み聞かせは充実していた。（児童も楽しみにしていた。） ・国語、社会、理科、総合的な学習の時間等で図書室を活用した。更なる活用を促していきたい。
		5について ○　一人1授業の実施 ○　授業論文への応募 ○　中学校との合同授業研究会の実施	○　一人1授業を実施し、少しの時間でも参観し、お互いに意見や感想を伝えた ○　授業論文への3名応募 ○　小中学校で、それぞれ研究授業を実施し、授業参観や研究会を実施することで授業力の向上や小中連携の強化を図った	3		・一人1授業は、全員が実施し、それぞれの授業に対しての意見や感想を述べることで改善を図った。授業論文には、3名が応募し授業力の向上を図った。来年度は、1学期にも一人1授業を実施し、授業力向上の状況を確認していけるようにしたい。 ・今後は、タブレット等の活用も含めて、子供達の学力が向上するような活用の技術の獲得に向けて、更なる努力を行っていきたい。
徳育	重点目標: ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる児童の育成 手段 1　いじめ認知の向上 2　学校に行くのは楽しいと感じる児童の育成 3　社会の問題や出来事に関心をもつ児童の育成 4　須木を愛し夢をもつ児童の育成	1について ○　生活アンケート・サポート委員会の実施 ○　家庭との連携の充実（電話や家庭訪問）	○　8月以外は毎月、生活アンケートを実施し、その結果をもとに、サポート委員会で対応を協議した。 ○　朝の立番、登校班集会等での具体的指導 ○　家庭への啓発と連携	3	3	・昨年度と比較すると、教師が0.6ポイント、保護者が0.4ポイントアップしている。アンケートは毎月実施し、気になる点がある児童については、聞き取りを行い、早期に対応してきた。認知件数は向上している。 ・家庭に対してもアンケートの実施や個人面談を実施し、困り感の把握とその支援を行った。今後も更なる支援に努めたい。 ・今後は、いじめが起こらない環境作りのために、確実な見届けや教師間、家庭との連携の更なる強化に努めたい。
		2について ○　人権学習の推進 ○　教育相談の充実（年2回　6月・11月） ○　夢の掲示	○　生徒指導、いじめ防止に関する職員研修の充実 ○　アンケート調査、教育相談、サポート委員会実施による、未然防止およびいじめの早期発見・早期対応 ○「西諸みんなで人権を考える取組」の実践	3		・昨年度と比較すると、教師が0.6ポイント、保護者が0.7ポイントアップしている。年2回の人権学習の実施、教育相談の実施、廊下に児童の将来の夢を書いたものを掲示したことが、向上した要因ではないかと考える。 ・将来の夢を確かなものにしていくために、学習することが大切であるということを実感できるように、キャリア教育を今後も推進していきたい。また、須木に戻って須木の発展のために頑張りたいと思う児童の育成に努めていきたい。
		3について ○　新聞、地域人材の活用	○　教科や行事のおける体験活動や地域の人材を活用した学習の実施 ※　SUP体験や社会科、総合的な学習の時間、生活科における学習での人材活用 ○「宮日こども新聞」の積極的な応募、コーナーの設置	2		・この項目だけが、昨年度と比較して教師0.3ポイント、保護者0.2ポイントと、ともに評価が下がっている。コロナウイルス感染拡大防止のために、校外学習を自粛したことや外部から講師を招くことを控えたことも原因ではないかと考える。夏休み以降は、校外学習等も実施した。今後は、感染対策をしっかりと行った上で講師を招いたり、会議用アプリ（ZOOM）などを活用したりして、外部講師の活用を図っていきたい。 ・授業で作成した作品を、宮日新聞に積極的に応募し、宮日こども新聞の記事をお昼の放送で読む活動も行った。継続していきたい。
		4について ○　キャリア教育、ふるさと教育の推進 ○　ボランティア活動の推進	○　地域の行事参加に関する啓発 ○　総合・生活科を中心に、各学年の内容に応じて、地域人材を活用したり地域素材を活用したりする学習を実施する。	3		・学校行事（遠足）で、地区内ウォークラリーを実施し、駐在所や郵便局、図書館、商店の仕事内容について学んだ。 ・今年度、総合的な学習の時間の年間計画を改善し、系統的に須木について学ぶことができるようにした。 ・地域の祭りにも多くの児童が参加するように呼びかけた。実際に多くの児童が祭りに参加した。 ・低学年の生活科の学習において、まちたんけんとして、地域内にある事業所や官公庁を見学し、須木で働く人に関する学習を行った。 ・朝の清掃など、自主的にボランティア活動を行う児童がいるが、固定化している。多くの児童に広げられるように呼びかけ等を行っていきたい。 ・須木について学ぶ職員研修を夏、冬の2回行った。
体育	重点目標: 健康的な生活を過ごそうとする児童の育成 手段: 1　健康な体作り、規則正しい生活習慣作り 2　体育の授業の充実 3　運動に親しむ児童の育成 4　保健・安全指導の徹底と健康で安全な生活の推進	1について ○「学校へ行こう」の呼びかけとともに、全員登校100日以上を目指す	○　学校便りや学級通信、保健便りで、心身の健康管理と欠席をなくすように呼びかけた ○　保健関係の記録に、全員が登校した日を記述し、日々、意識するようにした ○　欠席が続いた児童には、電話連絡や家庭訪問を行い対応した	2	2	・1月25日現在で、全員登校が50日達成できている。 ・連続して欠席した児童には、電話連絡や家庭訪問を行い、学校の様子を知らせるなどの対応を行った。 ・家庭の事情による欠席の際に、学校としては、できれば休ませて欲しくないと伝えた意見が、保護者の方に納得していただけず、不信感をもたれる結果となった。対応については、家庭の事情も理解した上で、学校としての考えを伝えるように対応していきたい。
		2について ○　体力向上プランにもとづく運動量の確保、質の向上 ○　タブレットを活用した体育の授業の実施	○　体力向上プランの作成と授業等での実践 ○　体力テストの実施と活用（本年度は、体力テストが中止のために実施できなかった） ○　タブレットによる動画、静止画撮影の授業への活用	2		・今年度は、全国での体力テストも実施されなかった。そのため、児童の現在の体力の状況を確認することができなかった。 ・11月に、長距離走大会に向けての練習を行い、大会も実施した。多くの児童の記録が向上した。 ・体育の授業は、水泳も含めて感染症対策を行いながら計画的に実施してきた。 ・タブレットの活用ができなかった。他の教科とも関連付けながら、技術の向上につながる効果的な活用方法について研究を深めていきたい。
		3について ○　朝、昼休みの外遊びの推奨 ○　遊具（一輪車、竹馬、サッカーゴール等）の整備	○　外遊びを奨励する「キバッ10カード」の配付と取組 ○　サッカーゴールの修理も行い、遊ぶことのできる環境を整備した	3		・昼休みは、外で遊んでいる児童も多く、一輪車や竹馬などの遊具を使用している児童も多かった。 ・朝は、ボランティア活動を行っている児童はいるが、外遊びを行っている児童はいなかった。適した季節に、外で遊ぶことを勧めていきたい。 ・サッカーゴール等の遊具で壊れているものについては、修理をし、使用できるようにしてきた。 ・児童にキバッ10カードを配付したが、その活用状況に対する見届けができていない。見届けまで確実に行っていきたい。
		4について ○　検診結果を活用した、虫歯治療率の向上	○　児童会と連携した基本的生活習慣の確立への取組 ○　検診結果の配付及び受診が進まない児童、家庭への個別相談の実施	3		・保体委員会の児童と連携し、正しい方法で歯磨きができるようになるための取組を行ってきた。 ・検診の結果を使用して、参観日の学校保健委員会で受診の呼びかけを行った。また、保健だよりや学級通信を活用して、長期休業などの期間を利用した治療の呼びかけを行った。 ・残り5名（25%）が治療が終わっていない。継続して家庭にも協力を呼びかけを行っていく。
食育	重点目標: 望ましい食習慣を身に付けた児童の育成 手段: 1　食に対する指導の充実、食育の推進 2　年間2回の弁当の日の実施と感謝集会の実施	1について ○　給食指導を通し、食事のマナー、箸の持ち方を身に付けさせる ○　残食残菜0 ○　早寝、早起き、朝ごはんの推奨と欠食0	○　ふれあい給食を通して、食事のマナーの向上を図るとともに、栄養バランスについて指導をする。（本年度は、会議用アプリZOOMを活用して実施） ○　食べきり週間の設定と結果の掲示 ○　通信や保健だより、学校保健委員会を通じて、保護者に投げかけた	2	2	・昨年度の結果と比較して、教師の評価が0.6ポイント下がっている。昨年度まで行っていた「eデー」を本年度は実施していないことや感染症拡大防止の観点から、ふれあい給食を行っていないことが原因と考えられる。学級担任の負担は増えるが、学級での指導と会議用アプリを活用したふれあい給食を実施することで、改善を図りたい。 ・夜遅くまでゲーム・動画視聴をすることの影響や朝ご飯の重要性について、保護者の方への啓発活動を行っていきたい。
		2について ○　弁当の日の「できることからやってみよう」の取組 ○　給食感謝集会や農業体験学習における感謝の気持ちの育成	○　3つのコースを設定し、自分に合った内容でお弁当の日に参加する ○　給食感謝集会を実施し、食への感謝の気持ちの醸成を図った。 ○　1・2年生が、芋の苗植えを行った。	3		・給食感謝集会は、1月に実施できた。食に対する感謝の気持ちをもち、食を大切にできる子供たちを育てていきたい。 ・全学年で食育の授業を実施することで、自分で食事のバランスを考えられる児童を育成したい。 ・今年度は、まだ弁当の日を実施できていない。3月の遠足の日に設定されている弁当の日は実施する予定である。 ・弁当の日ではなくても、弁当が必要な時には、手伝っている児童が多くなってきた。

次年度の方向性についての校長所見	○　今年度、授業改善や家庭学習の工夫、タブレットの活用など多くの改善を手がけてきた。次年度は、その改善の成果を、児童・家庭・学校ともに共有し成長を喜び合える環境を作り出していくことが重要であると考える。　○　コロナウィルスの拡大に伴う行動制限が多い中、健康作りに関する意識の高揚が今後も継続して求められる。運動・食への取組を、全児童で取り組んでいけるよう更なる改善を図っていきたい。○　児童自身が須木小を自分たちで作る学校として考えることができるように、主体性を持って行動する場を多く設定していきたい。